

おほはらえのことば  
大祓詞

高天原に神留り坐す皇親神漏岐・神漏美の命以て、八百万神等を神集へに集へ賜ひ、神議りに議り賜ひて、我が皇御孫之命は、豊葦原乃水穗之國を安國と平らけく知し食せと事依さし奉りき。如此依さし奉りし國中に、荒振る神等をば、神問はしに問はし賜ひ、神掃ひに掃ひ賜ひて、語問ひし磐根・樹立・草の垣葉をも語止めて、天の磐座放ち、天の八重雲を伊頭の千別に千別きて、天降し依さし奉りき。如此依さし奉りし四方の國中と、大倭日高見之國を安國と定め奉りて、下津磐根に宮柱太敷き立て、高天原に千木高知りて、皇御孫之命の美頭の御舎仕へ奉りて、天の御蔭・日の御蔭と隠り坐して、安國と平らけく知し食さむ國中に、成り出でむ天之益人等が、過ち犯しけむ雑雜の罪事は、天津罪、国津罪、許許太久の罪出でむ。如此出でば、天津宮事以て、天津金木を本打切り末打断ちて、千座の置座に置き足らはして、天津菅麻を本刈断ち末刈切りて、八針に取辟きて、天津祝詞の太祝詞事を宣れ。如此宣らば、天津神は天の磐門を押し披きて、天の八重雲を伊頭の千別に千別きて聞し食さむ。国津神は高山の末、短山の末に上り坐して、高山の伊穗

理、短山の伊穗理を撥き別けて聞し食さむ。如此聞し食してば、  
罪と云ふ罪は在らじと、科戸の風の天の八重雲を吹き放つ事の  
如く、朝の御霧・夕の御霧を、朝風夕風の吹き掃ふ事の如く、  
大津辺に居る大船を、舳解き放ち艦解き放ちて、大海原に押し  
放つ事の如く、彼方の繁木が本を、焼鎌の敏鎌以て、打掃ふ事  
の如く、遺る罪は在らじと、祓へ給ひ清め給ふ事を、高山の末、  
短山の末より、佐久那太理に落ちたぎつ速川の瀬に坐す瀬織津  
比売と云ふ神、大海原に持ち出でなむ。如此持ち出で往なば、  
荒潮の潮の八百道の八潮道の潮の八百会に坐す速開都比売と  
云ふ神、持ち可呑みてむ。如此可呑みてば、気吹戸に坐す  
気吹戸主と云ふ神、根国底国に気吹き放ちてむ。如此気吹き放  
ちてば、根国底之国に坐す速佐須良比売と云ふ神、持ちさすら  
ひ失ひてむ。如此さすらひ失ひてば、罪と云ふ罪は在らじと、  
祓へ給ひ清め給ふ事を、天津神、国津神、八百万の神等共に、  
聞し食せと白す。